



平成30年7月1日現在	
世帯数	: 808世帯
人口	: 1490人
男	: 717人
女	: 773人

夏の日の思い出

小学生として昭和40年代の本町で暮らした私にとって、夏の思い出は天神祭りの「舞台」に尽きます。何しろ「松本ぼんぼん」が始まったのが昭和50年だったからです。大抵の家は商売をやっている、家族は店の奥か上に住んでいました。定休日のない店も多く、放課後に家に居られても、親は構ってはいられません。7月に入ると舞台でたたく祭囃子の練習が始まります。当時は塾も習い事もまだ少なく、夕方から7時ごろまでが大鼓の練習でした。終わりの時間が近づくと、高学年の子どもが最寄りの菓子屋までアイスクリームを買いに行かされ、みんなで食べて解散となりました。この期間中には、「ごしや（五社）」のお祭りもありましたが、不思議なことに遊びに行った記憶がありません。開智小学校への登下校では松本神社を通るので、気

づかないはずはなく、また仕事中の親に連れられて行くことも、太鼓の稽古をさぼって行くこともありませんでした。余談ですが、松本神社の名称は昭和28年からなので、両親や祖父母にとっては「ごしや（五社）」であり、四柱神社は「しんと（神道）」なのでした。14日は天神の八坂様のお祭り、私の子どもが生まれてからは五色の幟（ぼし）を奉納しに通いまして、自分の子ども時代にはその存在も知りませんでした。知っていたら親にせがんで連れて行けと駄々をこねそうなものですが、それを見越して知らされなかったのかもかもしれません。子どもの健康やかな成長を願うお祭りとは縁がなかったのですが、結果的には問題はありませんでした。24日には天神祭りの宵祭りを迎えます。学校から帰ると

深志神社の境内に曳航された「自分」の舞台の2階に陣取り、周囲の舞台の子ども相手に銀玉鉄砲による「戦闘」の開始です。参拝に訪れた同級生に対しては、各舞台からの総攻撃が始まります。居並ぶ舞台の中でひと際重厚な「自分」の舞台は、子どもながらに誇らしくうれいものでした。25日の舞台の曳航は、揺れる車内で太鼓をたたくうちに終わります。そして待ちに待った夏休みが始まります。子どもの8月は「ぼんぼん・青山様」でした。お盆前の1週間ほどの期間、男女に分かれて街なかを練り歩きました。毎日のご褒美はアイスクリーム。松本城の盆踊りに行くこともなく、夏休みは終わっていきまます。民俗学者の柳田国男は、昭和初期に「明治大正史 世相編」をあらわしています。彼が過ごした明治・大正期の暮らしのあり様や習慣が急激に変化していく中で、記録として残したのですが、「平成」という時代の終わりが近づいていくにつれ、「昭和」の記憶も失われていきます。あなたが次の時代に伝えたい・残したいものは何ですか。

Presented by 視聴覚委員会



地区の文化財



「本町5丁目 ^{みつみね}三峯様



「伊勢町 神明宮様



「博労町 秋葉様



火伏せ・盗難よけ・街の繁栄などを願って、毎年6月には多くの町会で祭事が執り行われています。

ようこそ第一地区福祉ひろばへ

Mウイング4階にある第一地区福祉ひろばでは、町会役員等のみなさんによる企画委員会が中心となって、いろいろな講座を開いています。参加は自由です。お気軽にご参加ください。今回は、その中から2つをご紹介します。



初心者マレットゴルフ講座 年数回 午前中

外に出て体を動かす機会を増やし、体力づくりに役立ててもらおうと、地区の体育協会と共催で行っています。初心者でも無理なく参加していただけます。次回は10月5日(金)に開催します。詳細は地域だより9月号をご覧ください。



ふれあい健康教室 第2火曜日13:30~

運動や演奏会など毎月テーマを替えて開催し、新しい体験もできます。10月27日(土)は、日時を変更して全世代を対象としたレクリエーションを企画しています。大勢のみなさんの参加をお待ちしています。詳細は地域だより10月号をご覧ください。

毎月の講座内容は
第一地区地域だよりを
ご覧ください



ひろばサークル紹介「きさらぎ会」



楽器演奏サークル 代表/井口達子 活動日/第1木曜日13:30~

ピアノの伴奏に合わせ大正琴、ハーモニカ、木琴などいろいろな楽器で合奏を楽しんでいます。

ひろばサークル紹介「カラオケ同好会」



カラオケサークル 代表/杉原栄子 活動日/第1・3水曜日13:30~

気持ちよく、楽しんで歌っています。男性会員大募集中。気軽に体験にお越しください。

お仲間募集中! サークルの見学や参加を希望されるかたは、福祉ひろば(電話:39-1173)までお問い合わせください。

高度プロフェッショナル制度、裁量労働制とは言いますが、明治時代の黎明期とは違い、手本が無い新しい仕組み、ソフト等を作るのは、個人の発想と努力、もう一つ富岡製糸場にかけたような、強い後押しを必要としています。

自発的使命感による開発等は裁量です。しかし、上からのプレッシャーで行うのは事実上の強制であり、制約は必要です。

最悪の事例が出ないよう監督出来るかが、大きな政治的、行政的課題ではないでしょうか。

かたや現在は、ブラック企業・サービス残業等、人手不足にも関わらず、人を使い捨てのようになっている企業が話題となつて、時代がひっくり返つたような気がします。

第一地区公民館の視察研修で世界遺産『富岡製糸場』を見学しました。明治3年計画、5年創業との事です。事業に対する気迫は、現在にも通じます。労働者(工女)にとって手厚い福利厚生と、労働意欲につながる強いインセンティブが与えられ、ここで教育された方々が各地での製糸業成功、工業化を導いたのです。

